

コンチェルト

Concerto

The 5th simc
Volunteer News

第5回仙台国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門:2013.5.25(土)~6.9(日) ピアノ部門:2013.6.16(日)~6.30(日)

Vol.5-2

(2012.9.25発行 第5回コンクール関連 第2号)

コンクール出場経験者へのインタビュー

～佐野隆哉さん・根津理恵子さんに伺いました～



第2回・3回ピアノ部門出場
佐野隆哉さん

①仙台国際音楽コンクール応募の動機

佐野 私は、第2回と第3回のコンクールに出場させて頂いたのですが、生まれて初めて国際コンクールに参加したのが、この仙台国際音楽コンクールでした。

予備審査、そしてオーディションと厳しい関門を突破して出場が決まった時には、本当に嬉しかった事を覚えています。

応募の大きな動機としては、日本で規模の大きい国際コンクールを受けられるということが挙げられます。言葉が通じる、というのはとても心強いものです。

根津 一次予選から弦楽四重奏とのアンサンブルでコンチェルトを演奏できること、コンチェルトのレパートリーを拡大できることに惹かれ応募しました。



©Kei Uesugi

第2回ピアノ部門出場
根津理恵子さん

②出場の感想と仙台滞在の感想

佐野 コンクール事務局及びボランティアの方々の厚いサポートのお陰で、とても有意義な時間を過ごす事が出来ました。チャレンジャーズ・ライブや、学校訪問ミニ・コンサート等、コンクールに参加することのみならず色々な手厚い待遇が、このコンクールの特徴ではないでしょうか。

そして、仙台の皆さんの熱い応援が忘れられず、連続で2回も受けてしまった事は言うまでもありません。

根津 落選後の滞在が保証されている国際コンクールは、世界中探しても他にないと思います。

私は一度東京へ帰宅しましたが、ボランティアの方の温かさが忘れられず、再び仙台へ引き返し、チャレンジャーズ・ライブで演奏させて頂きました。

③コンクール後のエピソード

佐野 先の震災では、このコンクールで知り合った仲間と共にチャリティーコンサートを立ちあげ、今年4月には第2回目を無事に迎えることが出来ました。また、コンクールが御縁となって、せんくらを始め度々仙台での演奏会の機会を頂き、仙台が第二のふるさとなりつつあります。

根津 コンクール以降も度々、ホストファミリーやお世話になった方々にお会いしたく、年に数回仙台を訪れるようになりました。その後、仙台フィルの原田哲男さんとのコンサートを企画して頂くなど交流はますます深まり、今では仙台が私にとって第二の拠点のように演奏活動をさせて頂いています。



④第5回コンクール開催について、聴衆の方々へのメッセージ

佐野 震災で大変なご苦労をされたにも関わらず、こうして第5回目のコンクールが開催されるという事が本当に嬉しく思います。コンクールの結果も非常に大事ですが、一人一人の個性がいかに発揮され、素敵な演奏で仙台そして東北が包まれるよう、心より祈っております。

自分だけのお気に入りのコンテストを見つけるのも、醍醐味の一つではないでしょうか。皆で盛り上げるコンクール、これが仙台の大きな強みであり魅力となっています。

根津 大震災から2年でのコンクール開催は、大変な決断であったと思います。

しかし、大震災から半年で"せんくら"を大成功へと導いた仙台の方々の音楽への熱い思いは、世界中から集まる若い音楽家たちの大きな励みとなり、その交流ひとつひとつで得たものが、彼らの心の宝物となることを確信しています。



復興

音楽ホールの被災とその後



青年文化センター（3階ギャラリー）

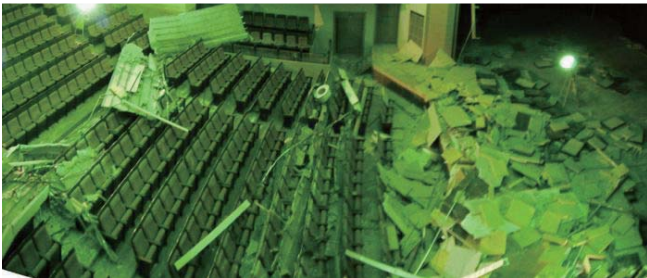
イズミティ21

①大ホール客席天井一部落下、スプリンクラー配管破損による浸水の発生。エントランスホール天井一部落下。壁面タイル内壁・外壁剥離。

②2011年11月5日（土）展示室で「NHK交響楽団メンバーと仲間たちの弦楽アンサンブルコンサート」を開催。
12月25日（日）には、大ホールでピアニスト高田匡隆（日本音楽コンクール優勝、第2回仙台国際音楽コンクール2位）の無料リサイタルを開催した。



イズミティ21（大ホール ピンスポットルーム）



太白区文化センター（楽楽楽ホール）

太白区文化センター

①楽楽楽ホール客席等天井落下。外壁および内壁各所剥離・亀裂、ガラス各所破損。

②2012年3月4日（日）「～絆～楽楽楽ミュージックフェスティバル2012」を開催。
※楽楽楽ホールのこけら落としも兼ねた。



エルパーク仙台（スタジオホール）

エル・パーク仙台

①スプリンクラーの一部破損により、大量の水がホールの床に流出。壁面に多数の亀裂が生じる。引出し式座席の一部破損。吊物ワイヤーの断線。

②2011年6月16日（木）に5階フロアが、9月21日（水）に6階ホール（スタジオホール、ギャラリーホール）が再開された。



せんだいメディアテーク（7階）

せんだいメディアテーク

①7階天井一部落下。その後4月7日深夜の余震により、半壊状態であった7階西側天井が落下。7階、スプリンクラー作動による浸水。3階南側窓内面ガラス破損。2～4階市民図書館フロアにて大多数の図書が書架から落下・散乱。

②2011年5月3日（火・祝）から部分的に開館、2012年1月27日（金）から全館開館。

2011年3月11日の東日本大震災の発生により、仙台市内も震度6強の強い地震に襲われました。更に追い打ちをかけるように発生した4月7日の大きな余震により、大きな被害となってしまいました。

あれから1年7ヶ月。少しずつ元の生活を取り戻しつつありますが、仙台市内のクラシック音楽を取り巻く環境に絞って、震災時とその後について、シリーズものとして取り上げてまいります。

一回目は、コンクールや『せんくら』に関わるコンサート施設を取り上げます。

①施設での主な破損箇所 ②再開(こけら落とし)時期

青年文化センター

①コンサートホールの吊り天井上部の建築・設備一部破損。シアターホール客席後方の天井の一部落下。2階交流ホールのスプリンクラーの配管破損による多量の消火用水が流出。地下パフォーマンス広場壁面モルタルの剥離・落下。4月7日深夜の余震により、3階ギャラリーの窓ガラスが大きく破損。

②2011年7月2日（土）青年文化センターコンサートホール復活演奏会。



第5回仙台国際音楽コンクール関連事業 街かどコンサート

ふたつのコンサートに宮城の若い芽を探しにいこう！

第5回仙台国際音楽コンクール開催までいよいよ半年あまりとなりました。コンクールに先駆けて開催される2つの「街かどコンサート」を紹介します。

呼びかけに応じて集まってくれた宮城の若い芽たち。練習を重ねての晴れ舞台をどうぞご期待ください。

会場はどちらも青年文化センターコンサートホールです。

オーケストラをピアノで弾こう！

2012年12月16日（日）
14：00 開場 14：30 開演
【プログラム】

第一部

チャイコフスキー：バレエ組曲「くるみ割り人形」
（ピアノ連弾による演奏と絵本の朗読）

第二部

ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」
（ピアノ連弾と管楽器、打楽器による演奏）



出演されるのは第一部、第二部とも小学生から20代までの若いピアノデュオ8組の皆さん。

第一部は舞台女優として仙台を拠点に活躍する木村美砂恵さんの朗読が華を添えます。

第二部は宮城教育大学教授、日比野裕幸さんが指揮を取り、仙台フィルハーモニー管弦楽団の竹内将也さんのティンパニ、宮城

教育大学生による管楽器がサポートします。

（写真は前回コンクール企画の街かどコンサート「ピアノ大集合!!!」）

この弓とまれ！100人の弦!!大祭典!!!

2013年1月27日（日）
14：00 開場 14：30 開演
【プログラム】

鈴木 鎮一（木村政己 編曲）：きらきら星変奏曲
ヴィヴァルディ：合奏協奏曲集「調和の靈感」第6番 イ短調
グリーグ：2つの悲しい旋律 op.34
シベリウス：組曲「恋する人」 op.14
グリーグ：組曲「ホルベアの時代より」 op.40
（弦楽合奏団による演奏）



出演はヴィヴァルディで独奏を担当するヴァイオリンソロの若いお二人、幼稚園から高校生で構成されるヴァイオリンと小学生から50代で構成されるヴィオラ、チェロ、コントラバスによる合奏

団の皆さん。今回は親子で参加する方もいます。

指揮には東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団アソシエイト・コンダクターの海老原光さんをお迎えします。出演者の皆さんは、6日間の合同練習を重ねて、満を持しての本番を迎えます。

（写真は前回コンクール企画の街かどコンサート「この弓とまれ！100人の弦!!大祭典!!!」）

■どちらのコンサートも入場無料です。（3歳以上入場可）事前申込制。

往復はがきに①～④の事項と返信先を記入して下記までお申し込みください。

①公演名「オーケストラをピアノで弾こう！」もしくは「この弓とまれ！100人の弦！！大祭典！！！」

②ご住所 ③お名前 ④電話番号

[申込先] 〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 仙台市市民文化事業団 宛

（申込はお一人様一枚のみ有効・申込多数の場合は抽選）

[締切]「オーケストラをピアノで弾こう！」12月3日（月）必着

「この弓とまれ！100人の弦！！大祭典！！！」1月15日（火）必着

■主催 仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団

■街かどコンサートがもっと面白くなる「オーケストラをピアノで弾こう！」レクチャー編第3回 参加者募集中

2012年11月17日（土）14：00～16：00 参加費1,000円 青年文化センター交流ホール（コンサート出演者も参加します）

■問い合わせ先 公益財団法人仙台市市民文化事業団 コンクール推進課 Tel. 022-727-1872

♪♪～素顔の出場者たち～♪♪

彼女はフランスのピアニスト。勝ち進んだらフィアンセを呼ぼうと思っていたようだ。かなりの自信で挑戦したがあえなく予選で終わった。気落ちがひどく、どう慰めたらいいのか分からなかった。でも次の日から毎日出場者の演奏を聴きに出かけて行った。帰ると一部始終を報告してくれた。まるで音楽評論家のように。

ある日から友との待ち合わせとって、朝食もとらず出かけること一週間程。帰りも段々と遅くなって、最終バスの日が続いた。門の前で待っていると、街灯の下で気がついたのか「ママみたい」と激しいハグ。毎晩のそのようなことも長くは続かなかった。帰りも早くなり、食事も家でするようになった。

スーパーで食べたいものを選んでもらおうと毎回のお寿司には驚いた。わさびが大好きなようで、おみやげにと大量に買い込んでいった。お寿司の握り方も練習し、帰国したら皆にごちそうすると、レシピを真剣に聞く。

その後の便りによるとうまくは作れなかったらしい。何回も握ってみたが、どうしてもソフトボールのようになってしまう。どうしたらいいの？助けてほしいと言ってきた。すぐ飛んで行きたいがそうもいかない、渡仏の折には作ってあげましょうと返事した。パリで会いましょうと約束してから八年が経っている。

思い出だけになりつつあるが、その後もロシアのバイオリニスト、ウクライナのピアニストを受け入れて。有能な若き音楽家たちに会えるのもホームステイ受入れならでのこと。将来、きっと立派な音楽家になりますようにと念じては別れを繰り返している。

皆さんにはぜひホームステイ受入れの体験をお勧めします。仙台という街が音楽の街、芸術の街と世界の人にとってもらえる礎になればうれしい限りです。

「パリの空の下、わさび娘の 爆弾握り
また楽しからずや」

青葉区在住 K・S （ホームステイ受入れ部門）

コンクールの楽しみ方 ～こんなところが面白い！～

課題曲など詳細は
コンクールHP <http://www.simc.jp/>



音楽コンクールというと、「普通のコンサートと違って関係者以外入れないのでは？」と思われたり、「なんだか難しくてわからなさそうだし・・・」というイメージがあり、なかなか足を運ぶきっかけがつかみにくいと思います。そこで、通常のコンサートとは違うコンクールならではの楽しみをお伝えします！

＜コンクールならではの選曲＞

ヴァイオリン予選・・・同じ曲の違う演奏者による聴き比べ

ヴァイオリン部門の予選の課題は、バッハとモーツァルトの指定曲の演奏となっています。モーツァルトは2曲のうちのどちらかを選択となっていますが、バッハは同じ曲を全員が演奏します。これは通常のコンサートではまず体験できません。同じ曲ばかりで飽きるかと思いきや、同じ曲でも演奏者によって表現が異なることが体験できる貴重な機会です。

ピアノ予選・・・出場者の自由選曲の個性が光る

ピアノ部門の予選の課題は任意の独奏曲で30～35分のリサイタルプログラムを演奏することになっており、バッハ、ベートーヴェン、ショパン等の指定の作曲家の作品を1曲以上入れるという指定はありますが、それ以外は自由。あまり有名ではない曲や現代曲が選ばれることもあり、知らなかった作曲家や曲と出会えます。

＜ピアノメーカーの聴き比べ＞

ピアノ部門ではヤマハ、カワイ、スタインウェイ、ベーゼンドルファーの4メーカーのピアノが用意されており、出場者が使いたいメーカーを選択するため、メーカーごとの音の違いが体験できます。

＜音楽学校や音楽界の雰囲気あのぞける＞

コンクール中は演奏終了後にロビーなどで出場者をよく見かけますが、正装から普段着に着替えた姿を見ると、クラシックの演奏者を身近に感じられます。そして、世界中で演奏家として活躍されている審査員の先生方が集まっている光景は近くで見ると迫力があります。こういった光景や雰囲気は音楽学校に行ったり、音楽業界に身を置かない限り、なかなか普通は味わえません。

また、出場者が有名な演奏家の弟子で、師匠が見に来ていることがあります。以前何気なく座った席の前に、ある著名なヴァイオリニストが弟子の演奏を聴くため座っているのに気づき、その瞬間から演奏が終わって席を離れるまで、自分が審査されているのかというくらい緊張しました。

＜すでにプロ、またはプロ以上の腕前？＞

コンクールとはいえ既にCDを出していたり、活躍している出場者もいます。「まだ学生の人たちの演奏でプロじゃないんでしょ？」と思われるかもしれませんが、プロ以上の熱演や腕前が見られたりと、ハイレベルな競演に驚くと思います。

コンクールを聴きにくるのにクラシック音楽に詳しくなくても大丈夫です。観客は会場で知識をテストされるわけではないのでご安心を。クラシックということにとらわれず、音楽が好きな人に聴いて・見てほしいです。

クラシックのコンサートは拍手のタイミングがわからなくて・・・という人は、周りが拍手を始めてから続ければOK。

タイミングが早すぎるよりは遅い方がいいのです。最後の一拍が鳴った瞬間に焦って拍手するのではなく、音が消える余韻まで味わって下さい。

また、ピアノやヴァイオリンを習っている、または習ったことがある人は、ぜひ足を運んでいただきたいです。習っている人ならば刺激を受けますし、一度やめてしまった人も、また習ってみたいくなるかもしれません。

気に入った出場者がセミファイナル、ファイナルへと進んでいくと嬉しくなって、コンクールがより楽しくなります。もし進めなかった場合でも、チャレンジライブや出張コンサートへの出演があれば、もう一度演奏が聴けるかもしれません。予選突破できなければおしまいではなく、多くの演奏機会を設けて成長の機会を与えられるところも、このコンクールのいいところです。

観客が多いほど出場者のモチベーションもさらに上がり、より良いパフォーマンスを引き出せます。多くの方に来場いただき、楽しんでいただきたいです！



2010年第4回 表彰式の様子

♪編集後記♪

北海道から震災後に仙台に移り住み、ニューメンバーとなりました。音楽に溢れる杜の都で、コンチェルトの制作に携わることができて希望いっぱい！！です。(栗)

ブログに続き、コンチェルトにもデビュー。ボランティアが楽しくて、仕事を忘れてしまいそうで怖いです。(浩)

コンクールまであと少し、と出場者と同様に緊張してきました(笑)。楽都・仙台が色付く芸術の秋、到来ですね。(松)

新ボランティアさんの加入でパワーアップ。いよいよ新企画、新技を携えてコンクール本番へ突入！の予感満々です。(三)

締め切り間近の期間は、間に合わせられるかどうか時間との戦いで、毎日綱渡りをしている気分でした。(川)

SIMCボランティアの宣伝企画に参加し、初めてコンチェルトの編集に携わりました。SIMCの活動内容が少しずつ判ってきた様な気がしております。(清)

長く広報宣伝に、そして皆さんの足を引っばらない様、がんばっていきます。(志)

新しいメンバーも加わり、コンチェルトが変化しつつ進化してゆく。乞うご期待。(吾)

発行：第5回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市市民文化事業団コンクール推進課(仙台国際音楽コンクール事務局) Phone: 022-727-1872 / E-mail: info@simc.jp / URL: <http://www.simc.jp/>